前期日程

教科

国語

（人文学部）

注意

1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

2 問題は一ページから九ページにわたっている。問題冊子が不備な場合は、直ちにその旨を監督者に申し出ること。

3 解答用紙は二枚で、問題冊子とは別になっている。**解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入せよ。解答用紙の所定欄以外に記入した解答は、評価（採点）の対象としない。**

4 受験番号は、解答用紙二枚の受験番号の欄（各二か所）に記入せよ。

5 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

実施年月日
31 2.25
富山大学

1

次のA～Cの三つの文章はいずれも、様々な書き手が原稿の締め切りについて触れた随筆を集めた『〆切本』の一部です。これを読んで後の問いに答えなさい。

A

著作物引用箇所のため非公開

B

著作物引用箇所のため非公開

C

著作物引用箇所のため非公開

著作物引用箇所のため非公開

（左右社編集部編『〆切本』より）

問1　傍線部(ア)～(カ)、(ケ)の片仮名を漢字に直し、(キ)、(ク)、(コ)の漢字の読み仮名を平仮名で書きなさい。

問2　空欄ⅰ～ⅳに入るものとして最も適当な言葉を次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

ア　また　　イ　実際　　ウ　しかし　　エ　だから

問3　傍線部①「作家の営みの機微」は、どのようなことを意味しているか。本文の内容を踏まえて六十字以内で説明しなさい。

問4　傍線部②「ゲンコウカケタカ」を漢字と平仮名で表記するとどうなるか、記しなさい。

問5　傍線部③「人生は長く、締め切り日は短し」について解釈した次の文章の空欄a～dに当てはまる言葉を記し、空欄eに当てはまる最も適当な言葉を後のア～オの選択肢から選び、記号で答えなさい。

この言葉は、「芸術は長く、［ a ］」という有名な格言を念頭に置いた表現である。元の格言は古代ギリシャの医師ヒポクラテスの言葉で、本来の文脈では「医療の技術を学ぶには長い時間がかかるが人生は短いので怠らずに励まなければならない」というような意味だったが、技術を表す語が芸術を意味する言葉でもあったことから、翻訳を経るうちに現在の日本では転じて「素晴らしい［ b ］は作者が死んだ後も残るが芸術家自身の命は［ c ］」というような意味で用いられるようになった。傍線部の「人生は長く、締め切り日は短し」という言葉はこれをさらに作り変えたもので、元の格言では「短し」とされていた［ d ］を「長く」と表現することによって、書き手にとって締め切りまでの時間が短く感じられることを［ e ］に表現している。

ア　論理的　　イ　厳密　　ウ　滑稽　　エ　具体的　　オ　抒情的

問6　傍線部④「奇癖」とあるが、なぜそのように言うのか、三十字以内で説明しなさい。

問7　傍線部⑤「いやみ」は、ここでは何のどのようなさまを言っているか、「いやみ」という語の意味が明らかになるようにしながら七十字以内で説明しなさい。

問8　傍線部⑥「自分でもほとほと呆れる現象」は、具体的にはどのような現象のことを指して言っているのか、五十字以内で説明しなさい。

問9　A～Cの文章のタイトルとして最も適当なものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

ア　早くてすみませんが……

イ　〆切哲学

ウ　締め切りと枚数は守れ

問10　次の選択肢は『〆切本』の中でA～Cの文章が配置されている章のタイトルです。A～Cの文章に対応するものを選び、記号で答えなさい。

ア　敵か、味方か？　編集者

イ　〆切なんかこわくない

ウ　人生とは、〆切である

問11　AとCは、ある共通した逆説に触れています。その逆説について七十字以内で説明しなさい。

2

は、次のページから始まります。

2

次の文を読んで、後の問いに答えなさい。なお、文中の二重傍線は原文(初版本)にある通りです。

近世人、歌の詞書(ことばがき)には、かならず侍るといふことをそへざれば、［ a ］にならざるやうに心得て、おしなべて「しかじかの時よみ侍る」「しかじかの所へよみておくり侍りける」などかくは、あたらぬことおほし。すべて侍るといふ詞は、つかふべき文と、つかふまじき文と有り。みだりにはいふ［ ア ］也。其故は、これは人に対して、敬ひていふ語の内の、己がうへにつきたる事に添へていふ詞にて、たとへば「庭の花を見侍りてよみ侍る」といふは、［ b ］に「庭の花を見ましてよみましてござります」といふに同じ。侍るは、此［ c ］のましてといひ、ござりますといふにあたれり。されば人のもとにいひやる文などには、いくらも書(かく)［ イ ］。重なるをいとふ［ ウ ］ず。さもあらぬただの文章には、一つもかく［ エ ］にあらず。然るを近世人の如く、何のわきまへもなく、みだりに侍る侍るとかくは、たとへば奴僕などに対しても、「花を見ましてよみましてござります」といひ、またひとりいふ語にも、然(しか)いはんが如し。をかしからずや。こは歌の詞書のみならず、すべて何の文にも、①右の心得あるべき也。古き物語どもを見(みる)べし。此詞は、人と人と語る語の内には、いくつ共なく重なりて多く有(あり)て、ただ地の語、または我より下ざまなる者、奴僕などに対していふ語などには、一つもあることなし。よくよく心をつけて考ふべし。②抑(そもそも)近世人の、此詞をみだりに添(そふ)ることは、代々の撰集の詞書にならへるひがごと也。撰集は、おほやけに奉る物なれば、撰者の、みかどに対(むか)ひ奉りて申す心ばへを以て、此詞をば多くおける也。されど古今集の詞書にはすくなし。後撰集よりこなたいとおほし。其中に拾遺集は、花山の帝の御自撰也と申すなるに、此詞の多かるは、かの集は、御清撰にもあらざ(A)なるやうに申すなれば、人々の書(かき)て奉りたるなどを、おのおのやがてしるさせ給ひなどせしままにやあらむ(B)。心得ぬことなりかし。また新古今集は、後鳥羽のみかどの御自撰のぢやうなるに、是も此詞の多きは、③其ころほひなどにいたりては、はやくかかるたぐひの詞づかひなども、くはしからずなりて、たださきざきの集どもの例のままにかかれたりとぞ見ゆる。さてまたわたくしの家々の集共などを見るに、歌ごとに此詞あると、一集のうちにをさをさなきとがあるは、此詞なきは、ただ何となくかき集めおきたる集、多くあるは、おほやけに奉り、またさらでも、貴人へ書(かき)て御覧ぜさせしなどなるべし。古き集共は、大かた此けぢめぞ見えたる。④今の世のならひになづまず、古(いにし)へをしたはん人は、わきまへあるべきことになむ。

(本居宣長『玉あられ』文の部より)

注　○撰集――詩文をある基準で選び集めること。また、その書。アンソロジー。ここでは、勅撰和歌集を指す。
　　○清撰――正当に選択すること。ふさわしいものを選ぶこと。

問1　空欄a～cについて、「雅語」「俗語」のどちらか文意に適合する方を選び、答えなさい。

問2　空欄ア～エについて、「べし」「まじ」のどちらか文意に適合する方を選び、活用させて答えなさい。

問3　傍線部A「あらざなる」B「にやあらむ」を、例にならって文法的に説明しなさい。

（例）「申すなるに」

申す（サ行四段動詞・終止形）なる（伝聞の助動詞・連体形）に（逆接の接続助詞）

問4　傍線部①の「右の心得」とは何か、説明しなさい。

問5　傍線部②～④を、現代語に訳しなさい。

問6　文中に見える勅撰和歌集の詞書の「侍る」の使用状況の変化とその理由について、作者の主張を簡潔にまとめなさい。

問7　勅撰和歌集とは何か、簡潔に説明しなさい。

1

問11	問10	問9	問8	問7	問6	問5	問4	問3	問2	問1	
	A	A				a			i	(カ)	(ア)
	B	B							ii		
	C	C							iii	(キ)	(イ)
40			40	40				40	iv		
						b				(ク)	(ウ)
						c				(ケ)	(エ)
20			20	20	20			20			
						d				(コ)	(オ)
						e					
60				60				60			

教科
国語

解答用紙（人文学部）

見本

受験番号

受験番号

得点欄 1

国語（人文学部）
得点欄
1

2

問7	問6	問5			問4	問3		問2	問1
		④	③	②		B	A	ア	a
								イ	
									b
								ウ	
									c
								エ	

教科
国語

解答用紙（人文学部）

見本

受験番号

受験番号

得点欄 2

国語（人文学部）
得点欄
2